

公開講座

手作り楽器ワークショップ

幼児教育学科 教授 木下 由香

これまで、福井県内の公民館や生涯学習センターから、身近なもので楽器を作るワークショップの開催依頼をいただき実践してきました。対象は未就学児とその保護者の時もありましたが、作業にはどうしても保護者のサポートが必須で、日常の子育てから少し解放されたい気持ちがある保護者にとっては、少々負担のようでした。年長児から小学校低学年の子どもたちと実践していく中で、個人差はあるものの、子どもたちの言葉の理解や手先の器用さなどの向上も進み、楽器完成の見通しが立つことが分かりました。特に男児からは、音の出る仕組みについて高い興味関心を示す姿が見受けられました。楽器は当然のことながら音楽分野で取り扱うものですが、音楽だけでなく理学的な視点からも楽器にアプローチすることができると分かりました。これらの経験から、総合的な学習の場として今回のワークショップを企画しました。

開催目標として、「身近なもので自分だけのオリジナル楽器を作ってみよう！音はどうやって鳴るのかな？音からどんなことをイメージしますか？作った楽器をみんなの前で披露しましょう。」と掲げました。

今回は4歳から9歳の子ども、9名（男児4名・女児5名）と保護者5名がご参加くださいました。最初に、様々な既製の小楽器に実際に触れてもらうことから始めました。素材や鳴らし方などについても共有し、同じ作りの楽器でも、大きさや長さ、太さ、素材を変化させることで音がどのように変化するか、注意深く観察してもらいました。そして、「ぶるぶる紙コップ」「ウクレレバンジュー」「タンタンドラム」を作製しました。さらに、夏休みの自由研究としてまとめることができるように、当日はワークシート

を配布し、自宅でも振り返ることができるよう工夫してみました。

【日 時】2022年8月4日（木）10:00～11:30

【場 所】仁愛女子短期大学 E館4階ホール

【参加人数】14名（子ども9名、保護者5名）

○この講座に参加した理由

- ・つくるのがすきだから。たのしそだったから。
- ・色んな工作をさせたい。
- ・夏休み中の子ども向け講座で楽しめそうと思ったから。
- ・夏休みに子どもに体験させたかったから。

○感想

- ・いっぱいつくれてよかったです。ありがとうございます。
- ・とてもたのしかったです。
- ・色々な楽器に触れさせられて、良い機会になりました。ただの工作だけでなく、音についての説明もしていただき勉強になりました。
- ・色々な楽器に一気に触れることができて良かった。

参加者からは、このようなコメントをいただき準備した甲斐がありました。作製途中では、子ども同士や保護者が対話しながら、あれこれ試行錯誤する姿も見られました。また、面白い音が出た時は、保護者と顔を見合わせて笑顔で共感する姿もありました。今後も子ども達の要望に沿えるような企画を考え、地域交流を深めていきたいと考えています。

